

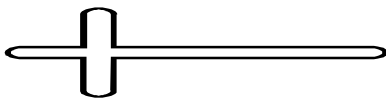


独立行政法人 国立国語研究所

## 第32回「ことば」フォーラム

後援：立川市

# 映像作品から話し言葉を考える



2007年6月30日(土) 国語研究所 講堂

1時30分

< あいさつ・趣旨説明 >

ことばと映像

品田 雄吉 (多摩美術大学名誉教授)

(40分)

「ことばビデオ」紹介・上映

< 休憩 15分 >

「ことばビデオ」の情報源

尾崎 喜光 (国立国語研究所)

(25分)

日本語教育で映像を使うと

小河原 義朗 (北海道大学留学生センター)

(25分)

4時

【ディスカッション】・・・映像作品から話しことばを考える

品田雄吉

尾崎喜光

小河原義朗

野山 広 (司会)

< 4時30分 終了 >

ロビーで、刊行物の展示と販売をおこなっています。

お帰りの際、同封の「アンケート」に御協力ください。

## 発表者紹介（発表順）

### 品田 雄吉 [しなだ ゆうきち] 映画評論家・多摩美術大学名誉教授

1930年北海道生まれ。1953年北海道大学文学部卒業。同年、映画雑誌「キネマ旬報」編集部入社。その後、「映画旬刊」「映画評論」編集部勤務を経て、1965年からフリーで映画評論活動に入る。1989年より2000年3月まで多摩美術大学教授。1989年より1999年3月まで多摩美術大学美術学部二部学部長。1997年より1999年まで学校法人多摩美術大学理事。2000年4月より多摩美術大学名誉教授。2001年より独立行政法人国立国語研究所「ビデオ作品制作委員会」委員。日本芸術文化振興会運営委員・映画部会長、独立行政法人国立美術館運営委員などを務めている。著書は、「監督のいる風景」「銀幕の恋人たち」「ビデオで観る100本の邦画」など。

### 尾崎 喜光 [おざき よしみつ]

#### 独立行政法人国立国語研究所・研究開発部門言語生活グループ・主任研究員

1958年長野県生まれ。北海道大学大学院文学研究科修士課程修了、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得中退。平成元年より国立国語研究所に研究員として勤務。専門は現代日本語の話し言葉に関する社会言語学。著書に、『国立国語研究所報告 118 学校の中の敬語 1 アンケート調査編』（共著、三省堂、2002年）『国立国語研究所報告 120 学校の中の敬語 2 面接調査編』（共著、三省堂、2003年）『国立国語研究所報告 123 言語行動における「配慮」の諸相』（共著、くろしお出版、2006年）『女性のことば・職場編』（共著、ひつじ書房、1997年）『男性のことば・職場編』（共著、ひつじ書房、2002年）など。

### 小河原 義朗 [おがわら よしろう] 北海道大学留学生センター准教授

東京生まれ。東北大学大学院文学研究科博士後期課程修了。東北大学文学部助手、国立国語研究所研究員を経て、2006年4月より現職。

専門は、日本語教育学。著書に、『日本語教師のための「授業力」を磨く30のテーマ』（共著、アルク、2006）など。

## ことばと映像

品田 雄吉

映像といえば、写真からテレビ、あるいはインターネット映像までが含まれることになるでしょう。私は映画を専門にしてきましたので、主として映画とことばについてお話をさせていただきたいと思います。

映画は始め、音を持ちませんでした。そこで台詞や状況説明などが文字で示されました。いわゆる「字幕」です。この字幕は、映像の間にうまく織り込まれることによって、単に意味を伝えるだけでなく、作品全体に固有のリズムを生む効果をもたらしました。また、きわめて単純な言葉が深い感動と余韻を生むこともありました。チャールズ・チャップリン監督・主演の『街の灯』(1931)のラストの部分に出る字幕の” You.” は、サイレント映画におけるもっとも感動的な字幕となったと言われます。

1930年代に入って、いわゆるトーキー映画が本格的に作られるようになると、映像と言葉を含めた「音」は、映画を成立させる重要な要素となります。今日のテレビまでを網羅して、映像と音はどちらがより重要とは言えないほど、伝達や表現にとって必要不可欠のものとなっております。

一つの例として、世界的な名作と言われる小津安二郎監督の『晩春』(1949)の1部を見ていただきたいと思います。(脚本抜粋添付)ここでは、ドラマ性のほとんどない日常的な会話が交わされますが、それが、人物の性格や感受性、あるいは人物同士の親近感などを見事にとらえているように思われます。つまり、映画の中のことばは、コミュニケーションだけでなく、ドラマの空間と時間を作り上げるのに重要な役割を果たしていると言えそうです。

もう1つの参考例として、恩地日出夫監督の『わらびのこう 蕨野行』(2003)を少し見ていただきたいと思います。江戸時代中期の田舎を舞台にしたこの映画は、台詞がすべて方言で語られますが、これは原作者である村田喜代子さんが創造した架空の方言だということです。(映画そのものは山形県にロケーション撮影されて作られています。)

最近では、ことばを扱った作品に平山秀幸監督の『しゃべれどもしゃべれども』(2007)があります。これは、3人の男女がそれぞれの理由でもっとうまくしゃべれるようになりたいと、若い落語家のもとに入門して落語を学ぶお話です。ここでは言語が人間関係をうまく作れなかったり、うまく作れたりすることが問題になっています。

以上のような例から、映像とことばの周辺について触れてみたいと思っております。

周吉「ひとりで外字雑誌を眺んでいる。

妻戸のあく音。

紀子が連入って来る。

紀子「ただ今——お客さまよ」

周吉「誰？」

小野寺が連入って来る。

小野寺「やア——」

周吉「よウ——」

小野寺「寄らないで帰ろうと思ったんだけど、銀座で紀ちゃんに逢ってね」

周吉「今度は何だい」

小野寺「また文部省だよ」

紀子「お父さん（買物袋から手袋を出して）お土産——」

周吉「ああ、これどこにあつた」

紀子（小野寺と顔を見合せて微笑しながら）「家中さがしてもない筈よ」

と折詰を出して置く。

周吉「ああ、多摩川か——行ったのかい」

小野寺「今日は紀ちゃんをすっかりつき合わさしちゃったよ」

紀子「小父さま、もっと召上りたいんですよ？ お酒

周吉「何が？」

小野寺「いやア、紀ちゃんに大へん不機嫌いされちゃってね」

周吉「誰が？」

小野寺「おれがだよ、またならしって云われちゃったよ、ねえ紀ちゃん——」

紀子「そうよ」

と微笑を残して去っていく。二人とも明るく微笑する。

周吉「美佐ちゃん、元気かい」

小野寺「ああ、あいつもね、どこで聞いて来たのか、結婚は人生の基礎なりなんて云っちゃってね、二十四まではお嬢にいかないって云やがるんだよ」

周吉「ふウん」

小野寺「そう云われりゃ、成る程そんな気もするしね、まあ、仕構がないと思ってるんだよ——紀ちゃんどうなんだい」

周吉「うーむ、あいつもそろそろなんとかしなきゃいけないだかね……」

紀子がお籠子を持って来る。

周吉（受け取って）「少しぬるいな」

紀子「じゃ……」

周吉「あとの熱くして——」

——」

小野寺「ああ、いいね」

周吉「あるのかい？」

紀子「ええ」

小野寺「熱くしてね」

紀子「はい」

と行きかけるのへ

周吉「お前、どうだった、血沈——？」

紀子「十五に下ったわ」

周吉「そろかい、そりゃよかった」

で、紀子が去ると——

小野寺「もうすっかり元気だな」

周吉「うん」

小野寺「やっぱり戦争中海軍なんかで働かされたのがたまたんだね」

周吉「その上、たまの休みには買出しで、手の五、六貫目も背負って来たからな」

小野寺「ひどかったな——いたむわけですよ」

紀子がお盆に箸や盃、薬物、小皿などをのせて運んで来る。

周吉（折詰を聞きながら）「京都の方、みんなお遅者かい、奥さん……」

小野寺「ああ——どうも悪いもの貰っちゃったよ」

紀子「はい」（と立ってゆく）

小野寺「ここ、海に近いのかい」

周吉「歩いて十四、五分かな」

小野寺「餌に遠いんだね、こっちかい海」

周吉「イヤ、こっちだ」

小野寺「ふウん——八幡様はこっちだね？」

周吉「イヤ、こっちだ」

小野寺「東京はどちらだい」

周吉「東京はこっちだよ」

小野寺「すると東はこっちだね」

周吉「いやア、東はこっちだよ」

小野寺「ふウん、昔からかい」

周吉「ああ、そうだよ」

小野寺「こりゃア願願公が幕府を開くわけですよ、要書堅固の地だよ」

27 港に打ち寄せる波

七里ヶ浜である。遠く江ノ島が見える。

28 海に沿うドライブ・ウェイ

微風を切って、狭やかに自転車を走らせてゆく紀子と

服部——

服部「大丈夫ですか、疲れませんか？」

# 『わらびのこう 蕨野行』の恩地日出夫

映画評論家 品田雄吉

恩地日出夫監督が、『わらびのこう 蕨野行』で平成一五年度（第五四回）芸術選奨文部科学大臣賞（映画部門）を受賞した。恩地さん、おめでとう。

私は、二〇〇三年度のキネマ旬報ベストテン選出で『わらびのこう 蕨野行』をベスト・ワンに推したので、恩地監督がこの作品の成果によって文部科学大臣賞を得たのは、わが意を得た思いであり、たいへんうれしい。

実を言うと、私は第五四回芸術選奨映画部門の推薦委員なるものの一人を務めた。で、当然私は、恩地日出夫を推薦した。だから、恩地さんが受賞したことにおおいに満足しているのである。

恩地監督の『わらびのこう 蕨野行』は、民話的な装いを持った、きわめて完成度の高い作品である。私は、既成の体制や秩序に対して、ときに反逆し、あるいは挑戦的な姿勢を貫きつつ作品を世に問うてきた恩地監督が、

恩地作品で素晴らしいのは、女主人公レンを演じた市原悦子だ。村田喜代子が創造したという独特の方言を一言一音くつきりと発声し、そこから何とも言えない、優しく哀しい、しかも人間の尊厳すら感じさせる深い感情を立ち上らせる。

ここで、芸術選奨文部科学大臣賞の「贈賞理由」を紹介しておこう。

「映画『わらびのこう 蕨野行』は、自然の風物の中から生まれ、そして再び自然に帰っていくという、日本人の伝統的な死生観のひとつの形を、くつきりと目に見え、耳に聞こえるものとするに成功したすぐれた作品である。自然の苛烈さとやさしさ、そこに生き、死んでいく人間達の毅然とした姿が、まことに美しく描かれている」

それにしても、このような秀作が、一般の観客にあまり知られないような形でひっそりと公開されるという今の日本の映画状況は、たいへん問題だと思う。作品批評から離れた専柄になるが、このような優れた作品がなかなか公開されにくいという状況に対して、国はもっと積極的な施策を取るべきではないか。このところ、国はこ

『四方十川』あたりから、それまでとは違って、静的で伝統的な演出スタイルを取るようになってきたのを面白い変化だと受け止めていた。ひたすら先鋭な前進を続けてきた作家が、ふと、ゆつたりと立ち止まり、周囲に目をめぐらせて、深い思索を沈潜させ、そうした過程を映像に反映させる。それはまさにもなく、作家の成熟を意味するのではないかと感じさせられた。

そして、『わらびのこう 蕨野行』は、昔の貧しい生活を描き、姥捨という厳しい歴史的事実を描きながら、高貴ささえ感じさせる気品に満ちた作品になっている。脚本もほかの技術面もすべて第一級の出来栄だが、技術面では私は特に上田正治の撮影に感動を覚えた。

無論、村田喜代子の原作がいいのだ。恩地監督はこの原作に触発されて映画化を決意したが、資金集めに難渋するうちに、劇団民芸の北林谷栄がこの原作に惚れ込んで、先に舞台上演した。この舞台では、映画で清水美那が演じたヌイの役を、多摩美術大学で私の教え子だった中地美佐子が演じたので、私もなぜかこの村田喜代子の作品に他人事ではない思い入れを感じるようになってしまった。

ういつた問題に関していろいろと考えているようで、いくつか施策も実行されているようだが、もつと目に見えるような結果を出してほしいものだと思う。

恩地日出夫監督が文部科学大臣賞を受けたのは喜ばしいことだ。が、同時にこの優れた映画が、もつと広く上映され、その真価を多くの映画を愛する人たちに問うことができるようになってほしいと祈る。

第32回「ことば」フォーラム  
 テーマ：映像作品から話しことばを考える  
 2007年6月30日(土)

## 「ことばビデオ」の情報源

尾崎 喜光

独立行政法人国立国語研究所  
 研究開発部門言語生活グループ  
 主任研究員

1

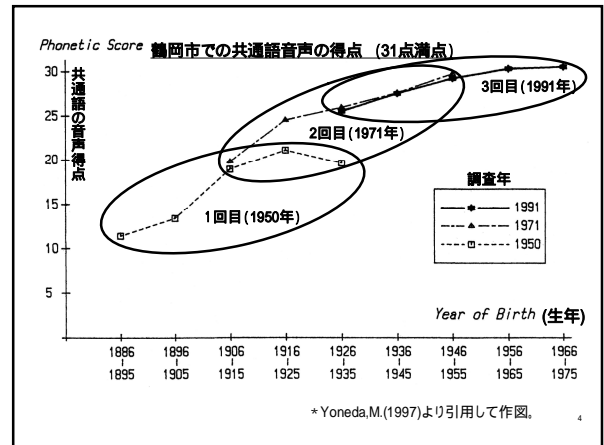


## 音声的特徴の例

「柿」：カ主 カヅ  
 「辛子」：カラシ カラsi  
 「息」：エキ エギ  
 「駅」：イキ エギ など

\* 東北方言に広く見られる特徴。

3



\* Yoneda, M. (1997)より引用して作図。

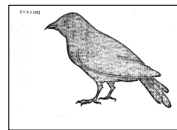
4

### 質問方法:

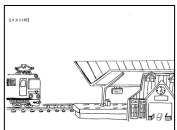
- ・「これは何ですか？」(絵を示す)
- ・「口からハーンと吐くものは何ですか？【息】」(なぞなぞ式)



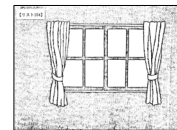
ネコ



カラス



エキ



マド

5

## 「場面差調査」

- ・ 1992年に実施。
- ・ 回答者は前年度の回答者の中の175人。
- ・ 聞き取りは尾崎(発表者)。

### 「場面」(発音状況を含む)の種類

- 非会話場面
  - 絵 / なぞなぞ式 (従来の方法で再確認)
  - 文字として書かれた単語を読む
  - 注目する単語を含む短文を読む
- 会話場面
  - よそ(東京)から来た初対面の人と話すとき
  - 地元の初対面の人(国勢調査員)と話すとき
  - 家族や友達と話すとき

6

< 架空の新聞の見出し記事の例 >

## 「猫に鈴」はやる

調査での補足説明:  
最近のペットの飼育者の流行についての記事です。

よそ(東京)から来た初対面の人と話すとき

例:「ネコにスズつけるのが、はやってるんですってね。」

地元の初対面の人(国勢調査員)と話すと

例:「ネコにスズつけるのが、はやってるみたいですね。」

家族や友達と話すと

例:「ネコにスズつけんな、はやってるんだとの。」

注:例は「実例」ではない。

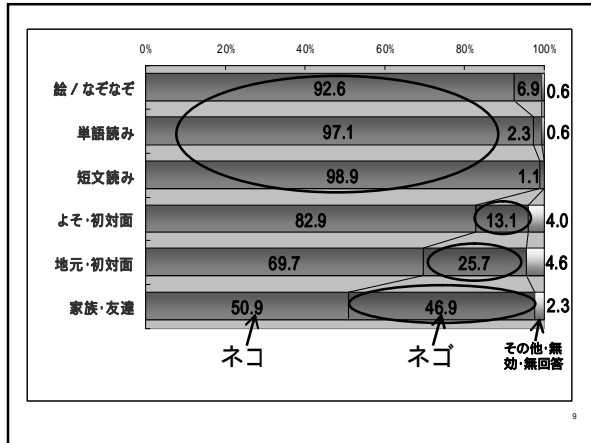
7

## 方言音声と共通語音声の使い分けが明確に認められた項目

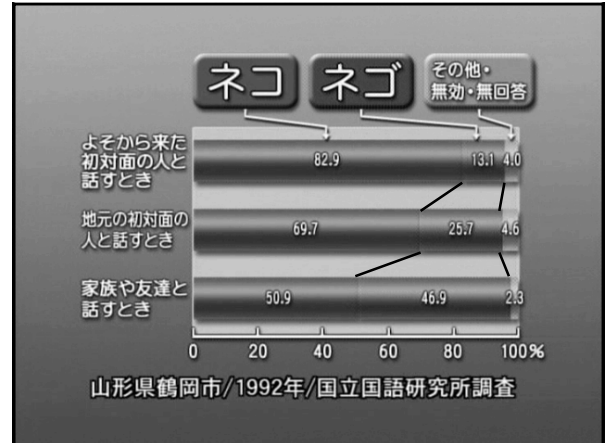
- (1) 語頭以外のカ行音・タ行音をガ行音・ダ行音とする発音(有声化) [例:猫をネゴ]
- (2) イ段音をウ段音に近づけた発音(母音iの中舌化) [例:辛子をカラスに近く発音]
- (3) 単語のアクセント

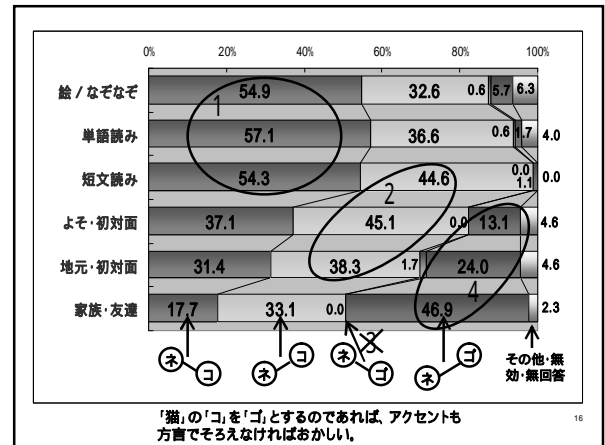
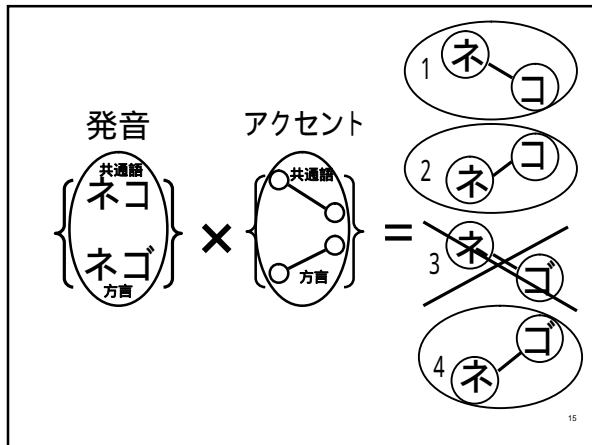
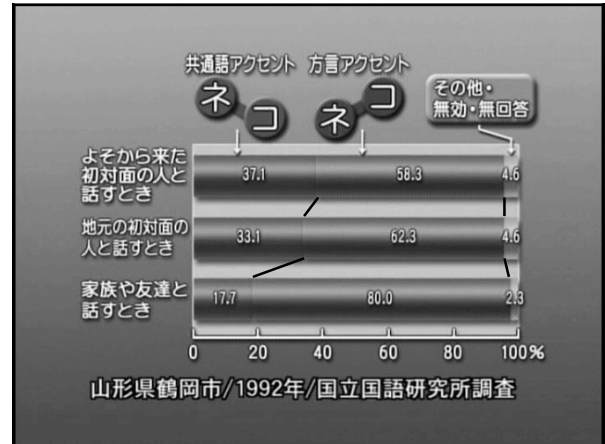
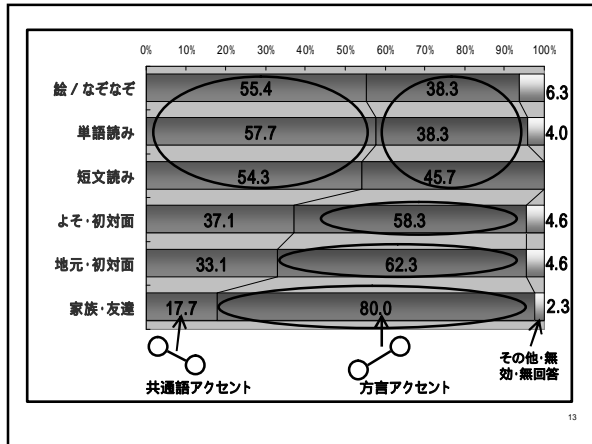
「猫」の発音(ネコかネゴか)と  
アクセント(ネコかネゴか)。

8



9





### 映像作品への貢献

地元ではありえない言い方を回避するために、言語研究が貢献できる可能性がありそう。





### 鶴岡市内でのロケ場面



### 参考文献

- ・国立国語研究所編(2006)『方言使用の場面的多様性 - 鶴岡市における場面差調査から -』(内部資料)
- ・国立国語研究所編(2007)『地域社会の言語生活 - 鶴岡における20年間隔3回の継続調査 -』(内部資料)
- ・尾崎喜光(2006)『山形県鶴岡市における「場面差調査」』『日本語科学』20、pp.89-106
- ・Yoneda,M.(1997) Survey of standardisation in Tsuruoka, Japan: Comparison of results from three surveys conducted at 20-year intervals. 『日本語科学』2、pp.24-38

20

## 日本語教育で映像を使うと - ビデオを活用する立場から -

小河原義朗（北海道大学留学生センター）

### 1. 大学での日本語教育

#### 1.1. 国内外における日本語学習者の増加

- ・国内の日本語学習者数は 135,514 人，アジア地域出身が 104,441 人(77.1%)
- ・大学の日本語学習者数は 42,718 人，アジア地域出身が 39,650 人(88.4%)

(文化庁調査平成 17 年 11 月 1 日現在)

[http://www.bunka.go.jp/kokugo\\_nihongo/kyouiku/index.html](http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/kyouiku/index.html)

- ・国外の日本語学習者数は海外の 120 カ国と 7 地域で 2,356,745 人

(国際交流基金調査 2003 年現在 [http://www.jpj.go.jp/j/japan\\_j/oversea/survey.html](http://www.jpj.go.jp/j/japan_j/oversea/survey.html))

- ・日本への留学生数は 117,927 人

(日本学生支援機構調査平成 18 年 5 月 1 日現在)

[http://www.jasso.go.jp/statistics/intl\\_student/data06.html](http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/data06.html)

- ・北海道大学への留学生数は 852 人，国内 21 位，アジア地域出身が 677 人(79.5%)

(平成 18 年 5 月 1 日現在，学部生 120，大学院生修士課程 176，専門職 1，博士課程 316，研究生等 211，日本語日本文化研修生 28)

#### 1.2. 北海道大学留学生センターにおける日本語教育

留学生のニーズに応じた日本語教育

例：・日本語日本文化研修コース

(母国で既に日本語・日本文化を学習している国費留学生対象)

- ・日本語集中コース(国費研究留学生に対する大学院入学前予備教育)
- ・一般日本語コース(全留学生(研究生，大学院生，特別聴講学生，科目等履修生，研究員)に対する日本語補講)
- ・その他

### 2. 映像を使った日本語教育

#### 2.1. 日本語教育現場で教師は映像をどの程度，どのように活用しているのか

(1)金田・小河原・笠井(2006)

- ・方法：アンケート調査
- ・対象者：国外の日本語教師 1,299 人(タイ(バンコク)204(2001 年調査)，韓国 631(2003 年調査)，台湾 224(2003-04 年調査)，マレーシア 240(2004 年調査))
- ・生教材として映像(ビデオ)が使われている
- ・生教材を使う理由：「学習者の興味・関心をひくため」「日本の事物や文化に触れさせる

ため」「学習者に本物の日本語に触れさせるため」

(2)保坂・土井・長谷川(2004)

- ・方法：アンケート調査
- ・対象者：国外の日本語教師 181 名  
(ソウル, バンコク, クアラルンプール, ロスアンジェルス, ロンドン, 韓国研修生)
- ・全体の 70.8%が授業において映像教材を使用
- ・使用映像教材  
教育用教材 80.2%(日本語教育用ビデオ 56.2%, 日本社会・文化紹介用ビデオ 22.3%, 一般教育用ビデオ 1.7%)  
生素材 92.6%(アニメ 25.6%, 映画 15.7%, ドラマ 11.8%, ニュース 6.6%, ドキュメンタリー 6.6%, 情報・娯楽バラエティー 5.8%, CM 5.0%, 音楽番組 2.5%, 天気予報 1.7%, 時事解説 1.7%, その他 TV 番組 9.9%)
- ・映像教材の利用方法  
「内容を楽しむ」「学習後学習項目が使用されている場面を見せて確認」  
「日本文化の紹介と理解のため」「学習項目の導入」「ディスカッションの材料」  
「映像情報を提供する」「ロールプレイのための状況設定」「聴解力の向上・確認」

(3)築島(2006)

- ・映像利用の実態は「内容について感想を言う」「自国と違う点を指摘する」「言語や表現に着目させる」が多い。

日本語教育の授業では、具体的にどのように映像を使うことができるのか、考えてみましょう。

利用映像：国立国語研究所(2005)『暮らしの中の「あいまいな表現」』

「ことばビデオ」シリーズ<豊かな言語生活をめざして> 4

## 2.2. 学習者は映像をどのように見ているのか

(1)学習者の映像利用の実態

国立国語研究所(2002, 2004, 2005, 2006a, 2006b)

- ・対象者：国外の日本語学習者 21,465 人(タイ 5,919 人(2001 年調査), 韓国 6,739 人(2003 年調査), 台湾 3,447 人(2003-04 年調査), マレーシア 5,360 人(2004 年調査))
- ・方法：アンケート調査
- ・質問項目「日本語の授業以外の時間に、日本語が使われているのを見たり聞いたりすることはありますか」  
「はい」タイ 88.3%, 韓国 97.9%, 台湾 93.6%, マレーシア 89.9%
- ・質問項目「授業以外でどんなもの(日本語が使われているもの)を見たり聞いたりしますか」

順位	タイ	韓国	台湾	マレーシア
1位	テレビ放送 56.2	マンガ 52.8	テレビ番組 86.3	ビデオ・VCD・DVD 63.8
2位	マンガ 53.8	テレビ番組 48.0	CD 61.6	テレビ 57.2
3位	雑誌 48.1	ビデオ・DVD 47.8	マンガ・アニメ 59.4	マンガ・アニメ 39.0

(単位：%)

・質問項目「見たり聞いたりする理由は何ですか」

「楽しいから」「日本語に触れたいから」

・映像の利用に関する教師の思惑と学習者の実情のちがい

・学習者自身が映像を読み解く力の必要性

・その他：授業における映像利用技術の向上

著作権など

### 3. 国立国語研究所「ことばビデオ」の利用

北海道大学学部学生 50 名から「ことばビデオ」視聴後に得たコメントから

(1)外国人といっても母語によって話す日本語の特徴が変わる

・同様に日本人が話す外国語にも特徴がある

・日本語の中にも地域によって発音や話し方が変わる

・話し手の発音や話し方だけでその人の人間性などを判断してしまいがち

(2)身のまわりに外国人が増えているという現実

(3)日本語を外国語という別の視点から見るとおもしろさ

映像によるインパクトの強さ

#### 参考文献

金田智子・小河原義朗・笠井淳子(2006)「日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究：教師調査を中心に」日本語教育国際研究大会 ICJLE2006 発表資料

国立国語研究所(2002)『平成 13 年度日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究 - タイ(バンコック)アンケート調査集計結果報告書』

国立国語研究所(2004)『平成 15 年度日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究 - 韓国アンケート調査集計結果報告書』

国立国語研究所(2005)『平成 16 年度日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究 - 台湾アンケート調査集計結果報告書』

国立国語研究所(2006a)『平成 17 年度日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究 - マレーシアアンケート調査集計結果報告書』

国立国語研究所(2006b)『日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究 海外調査報告書』

保坂敏子・土井真美・長谷川恒雄(2004)「海外における映像教材に対するニーズの共通性と相違性 - 『日本語教育用NHKテレビ番組集』制作のためのニーズ調査から - 』『2004 年日本語教育国際研究大会予稿集 1』 pp.125-130.

築島史恵(2006)「海外の現場が望む映像素材 - 高校生の事例を中心に - 』『2006 年度日本語教育学会春季大会予稿集』 pp.35-39.